

戦前の日本における世界文学観が甦る!

世界文芸大辞典

底本＝『世界文芸大辞典』（吉江喬松編 中央公論社 昭和10～12年）

全7巻
別冊1

比較文学研究に必備の
文芸総合大辞典!



Wiese die Hand nicht ab von deinem
Bilde, sie blühet
Noch auf der Wange dir, noch in
dem Herzen dir auf.
Rymont d. 15. Jul. 1801.
Goethe

①



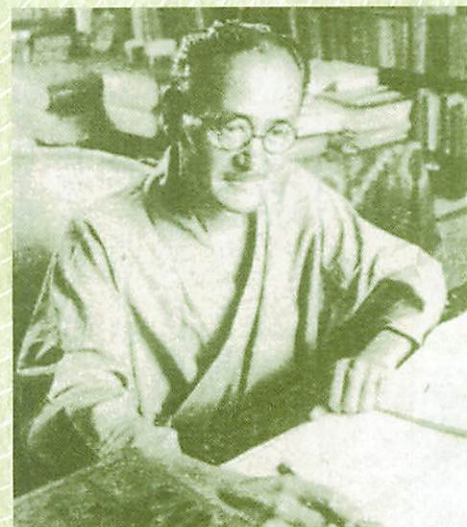
②



③



⑤



④

〈写真〉

- ①ゲーテと筆跡
- ②プルースト
- ③シェイクスピア
- ④吉江喬松
- ⑤ベルレーヌ(左)と
ランボー(右)

※「世界文芸大辞典」本文より

日本図書センター

約二七、〇〇〇項目(人名・地名・作品名・用語など)と

東洋・西洋・南欧・北欧などの世界文学史!

特色

戦前の世界文学辞典としては最高水準の『世界文藝大辞典』(吉江喬松編 昭和一〇〜一二年 中央公論社)全七巻を復刻。編者の吉江喬松が一〇年余り費やした文芸総合大辞典。執筆者は、数百名におよぶ。

世界文芸全般にわたる事項(文学、社会学、哲学、宗教、心理学、美学、絵画、彫刻、音楽、建築、演劇、映画など)約一万七〇〇〇項目と二〇余国の世界文学史。

同辞典の付録として刊行された『世界文藝』第一〜八号(昭和一〇年一〇月〜一二年一二月)を別冊に付す。吉江喬松、谷崎精二、三木清、阿部知二、西脇順三郎らによる世界文学エッセイ!

推薦します

甦る戦前日本の世界文学観

武蔵野学院大学教授

佐々木隆

I・T革命なる言葉を越え、今やインターネット検索を利用すれば、自宅にいながら、国立国会図書館をはじめ、大学の図書館の蔵書状況が把握できるユビキタス時代である。しかし、時代を逆上る研究では、最も有効なのが「活字」そのものである。そして、活字の集大成は辞典ということになる。シェイクスピア流に言えば、「辞典は時代を映す鏡」ということになろう。日本が戦前に世界文学に対して鏡を掲げたのは、島村抱月(明治四年〜大正七年)が中心にまとめた『文藝百科全書』(明治四十二年、隆文館「日本図書センターより平成十四年復刻」と吉江喬松(明治十三年〜昭和十五年)が中心でまとめた『世界文藝大辞典』(中央公論社、全七巻、昭和十年〜十二年)である。此度、『世界文藝大辞典』が復刻されることで、戦前の日本における世界文学観がここに甦ることになるのだ。復刻に伴い附録の『世界文藝』(第一号〜第八号)も別冊として収録される。日本研究には必携の復刻となるのだ。

各巻項目(抄録)

第1巻(ア〜ウ)

愛、アイスキュロス、愛他主義、アイヌ、「あひびき」、アイル

1、探偵小説、チェスタートン、チエーホフ、「地上」、チャベツク、彫刻、チヨールサー、朝鮮、「ツアラトウストラ」、ツヴァイク、通俗小説、ツルゲーネフ、ディケンズ、哲学、デューイ、デユ

世

責任編輯者

吉江喬松



責任編輯者